

ふるさと棚田オーナーの 田植え体験

東京農業大学助手 松田恭子

今年も昨年に続きふるさと棚田オーナーに参加させていただいております。

この一年、東京農業大学の研究チームの一員(下つ端)として桑取地区に度々調査でお伺いするようになり、少しずつ地元の地理が分かるようになって来ました。

一年前といたら、湯つたり村までの県道から入る脇道はどれも皆同じように見えて、大洲の棚田に行くにもどこから入ればよいのかわかりませんでしたし、田んぼも棚田オーナーの所以外は全く見分けが付きませんでした。何せ棚田でするので、周りの目印を見たり広く見渡すという事がなかなかできない所も多いのです。地元の方が田んぼの地図だけを見て、「この田んぼは誰々さんの田んぼ」と全て頭に入っているには驚愕でした。さらに言えば、ほとんどペーパードライバーだったため、湯つたり村までの舗装

の良い県道でさえもおっかなびつくり、時速四〇kmで走っていました。

この一年で、桑取での車の運転にもようやく慣れ、集落の名前の並び順もだんだん覚え、あの大洲の棚田にある「はさがけ」も慣れ親しんだ風景となりました。子供の頃引越しをした時に比べると土地になじむのに時間がかかるようになりましたが、それでも一年前に比べると分かるようになってきているのだなあと、変化を実感しています。



しかし、肝心の田植え体験はまだ二回目。去年は大洲で四角い田んぼを共同で使いましたが、今年をあえて整備されていない中ノ俣の棚田を希望してみました。大洲に比べてメンバーは少なめでしたが、吉川から来ている方もいて、上越市合併の広がりを感じました。初めての顔合わせでまだじっくりお話を聞きするところまではいきませんでした。これから収穫までの作業を通じて楽しくやっていきたいと思います。

大洲と違い、一人で一つの田んぼ。作業の良し悪しが明らかになってしまいそう、責任重大です。昨年おすそ分けしたお米は、「子供に分けたら、お母ちゃん、あのお米おいしかったあ。と電話がかかってきて。」と言っていたきました。こう言われると今年も贈らなくて、と思ってしまうすねー雨が降らなかつたり土砂降りになったり心配なこの頃ですが、今から収穫が待ち遠しいです。

